

令和8年度

納所小学校

学校教育の重点

みんなが“大好き！”
納所小学校をめざして



京都市立納所小学校

生きる力

- ◆自らの人生を舵取りすることができる
民主的で持続可能な社会の創り手の育成
- ・将来、自分の足で立って（仕事に就いて）生きていく力
- ・それぞれのコミュニティで周りの人と住みよい場所を築く力

なりたい自分を見つける力 【知】（問いさがし）

なりたい自分に近づくための力 【知】（課題解決）

よりよい人生を送る力 【知】（自分づくり）

学校教育目標

「自ら学び、認め合い、伸びていくことを楽しむ子どもの育成」

めざす子ども像

① のぞみをもって、努力し続ける子

- ☆話をしっかり聞き、よく考える子
- ☆自分のおもいを表現し、伝え合える子
- ☆進んで課題解決し、あきらめずに取り組む子

確かな学力【知】

② うつくしい心をもち、 自分も友だちも大切にする子

- ☆人とのつながりを大切にし、感謝や思いやりの心がもてる子
- ☆進んであいさつがする子
- ☆自らを律し、きまりを守れる子

豊かな心【徳】

③ そうめいで、心身共にたくましい子

- ☆自分でしっかり考えて正しく行動できる子
- ☆めあてに向かって頑張る子
- ☆命を大切にできる子

健やかな体【体】

～チーム納所の4つの視点～

安心・安全な風土作りを心掛け、自己存在感がもて、自己決定の場もあり、共感的な人間関係を大切にする。⇒「チーム納所」

学力の3要素

★何ができるようになるか

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

◆育てたい資質・能力

- ◇学んだことを生活の場や自己の生き方にいかす力【学びに向かう力】
 - ◇人の喜び、辛さや悲しみを受け止められる力【人間性】
 - ◇健康や安全について気づき、考え、行動し、命を大切にする力【生きる力】
- よりよい学校教育を行うことで、よりよい人生を送る力をつける。

⇒ よりよい社会を創る

新しい時代に必要となる
資質・能力を踏まえた
教科・科目や目標・内容
※京都市スタンダード

★何を学ぶか

主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング)
の視点からの学習課程の改善
※質の高い理解を図るための学習過程

★どのように学ぶか

授業イメージ

- ・学ぶことに**興味や関心**を持つ
- ・自己のキャリア形成方向性と**関連付ける**
- ・見通しをもって**粘り強く**取り組む
- ・自己の学習活動を振り返って**次につなげる**

1時間の授業

- ・子ども同士の**協働**
- ・教員や地域の人々との**対話**
⇒自らの考えを**広げ深める**

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、

- ・知識を相互に**関連付けて**より深く**理解**する
- ・情報を精査して**考えを形成**する
- ・問題を見いだして**解決策を考**える
- ・思いや考えを基に**創造**する





各教科で育成する資質・能力

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性の涵養

生きて働く
知識・技能
の習得

未知の状況にも
対応できる思考力・
判断力・表現力
等の育成

<次期学習指導要領に向けた基本的な考え方について>

 自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成 

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)



当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

1 「主体的・対話的で深い学び」の実装 (Excellence)



「主体的・対話的で深い学び」
の視点からの授業改善を通じた
資質・能力の育成について、
一層の具現化・深化を図る

2 多様性の包摂 (Equity)



子供たちの多様性を包摂することで、
一人一人の意欲が高まり、可能性が
開花し、個性が輝く教育を実現する

3 実現可能性の確保 (Feasibility)



持続可能な在り方を追求し、教師
と子供の双方に「余白」を創出す
ことで豊かな学びに繋げる

学びをデザインする高度専門職としての教師

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備

「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む



今の時代に、この仕事に就いているということ。

めざす教師像と高い教育観を追究すること。

《目標達成に向けて》

(1)安心して、楽しく学べる学校づくり

○わかる授業（「わかった」「できた」が見える授業）

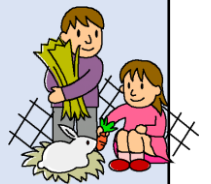
- 基礎的、基本的な内容の定着
- 言語活動の充実
- 問題解決的な学習の充実
- 指導と評価の一体化
- 個に応じた指導の徹底
- 焦点化した授業
- 帯時間の学習の実践
- 地域の人材、教材を活かした学習
- 毎日の家庭での自学自習の習慣化（自己調整力の向上にもつなげる取組）

○楽しい学級（「ここが自分の居場所」と思える学級）

- 一人一人を大切にした学級経営
- 気持ちの良い一日のスタート
- 人権教育、道徳教育の推進
- いじめ、不登校の未然防止と仲間づくり
- 係活動の活性化
- 積極的な保護者とのコミュニケーション
- 優しさの連鎖の拡充
- 意味の不在の解消

○安心できる学校（「命」と「心」が守られている学校）

- あいさつの徹底
- 清掃指導の徹底
- 健康教育の継続推進
- 安全教育、安全管理の充実、徹底
- 組織で対応する生徒指導
- 児童の思いをいかした特別活動
- 栽培、飼育活動の充実



(2)教職員のあるべき姿



- 教育公務員としての望ましい言動
- 個を活かした組織
- チームとしての対応（報連相の充実）
- 子どもや親のせいにすることなく、実態から学び、実践する。
- よさをふんだんに見つけ、適宜そのよさを返す。
- 課題解決に向けたプロセスを重視する。
- 働き方改革推進（ライフワークバランス）
- 学校評価システムを生かした取組の展開
- 環境への配慮と効率のよい予算の執行
- 幼保小中連携や地域ぐるみの教育の創造と充実

楽しむ
心は
大人も
同じ



《取組の重点》

(1) 学習指導の重点

- ①一人一人の思いや考えを大切に学習を展開するため、学習ツールや学習形態等を工夫し、みんなで高め合う授業を展開する。
- ②学習の基礎となる言語活動を培うため、家庭と連携を図り、読書ノートを活用した「めざせ100冊・読書マラソン」等の読書活動の促進を行う。
- ③基礎的・基本的な学力の定着に向け、PDCA サイクルにより、研究・実践を推進し、授業の工夫・改善と家庭学習の習慣化に向けた取組を推進する。
- ④ジョイントプログラム、学習確認プログラム、全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上プランを実行・推進する。
- ⑤子どもが生き生きと主体的に学習する「総合的な学習の時間」を展開する。
- ⑥道徳教育、外国語活動・外国語科の充実を推進する。
- ⑦ICT 機器を、積極的・日常的・効果的に活用し、情報活用能力を育成する。
(GIGA スクール構想の推進&充実・KYOTO×教育 DX ビジョン)

(2) 人権教育の重点

- ①子どもたちの人間関係や学校、学級の規律は、学校における人権教育の基盤であることを意識して教育活動を進める。
- ②同和問題教育・外国人教育・国際理解教育・情報モラル教育・総合育成支援教育・LGBTQ 教育・生命に関する教育について、年間を通して計画的に「きずな学習」を行い、人権に対する認識を育て、多種多様な人や考え方を尊重できる子どもや集団を育む。
- ③子ども一人一人が端末を安全に安心して活用できるよう、年間を通して情報モラルについて学ぶ機会を設け、家庭と連携しながら正しい活用ができるようにする。

(3) 生徒指導の重点

- ①児童と「納所小学校 7の約束」を制定し、教職員が率先して取り組む。
- ②楽しい学校・学級の実現に向け、仲間づくり・絆づくりに取り組む。
- ③不登校・倦怠学傾向の子どもには、積極的で粘り強い指導や家庭への働きかけを継続する。
- ④生徒指導課題のある子どもの情報を共有し、初期対応を共通理解する。報告・連絡・相談の徹底。チームで速やかな対応ができる学校体制を継続する。
- ⑤SC・SSW や、児童相談所等の関係機関と連携を深め、不登校、いじめ、問題行動、虐待等の課題解決に取り組む。
- ⑥生徒指導の実践上の4つの視点・いじめアンケート・クラマネを活用し、自分の指導を振り返る。

(4) 健康教育の重点

- ①新しい生活様式を踏まえた、心と体の健康づくりに向け、計画的且つ実践的な健康教育の取組を進める。
- ②病気、けが、薬物乱用に対し、その原因や予防法について発達段階に応じた理解を図り、自分の身を守ろうとする意識と態度の育成に努める。
- ③子どもの食生活の実態を把握しながら、望ましい食習慣の定着に向けて取り組む。
- ④「早寝、早起き、朝ごはん」の徹底に向け、保護者への働きかけを強化する。
- ⑤歯と口の健康を図るため、フッ化物洗口や食後の歯みがきの取組を充実させる。
- ⑥生涯にわたって、自らの健康に目を向けられる資質能力の素地を養う。
- ⑦健康チャレンジを継続しさらなる充実を図る。

(5) 安全教育の重点

- ①学校及び地域における生活安全について、子どもの意識の向上を図る。
- ②授業や学校行事をはじめ、休み時間その他における学校生活の安全について指導を徹底する。
- ③地域やPTAとの連携を密にし、交通事故や不審者による被害等にあわないよう、登下校や放課後の過ごし方についての指導を強化する。
- ④安全教育・安全管理について見直し、防災マニュアルの点検やあらゆる場面を想定した避難方法や緊急時の対応について確認し実践に生かす。
- ⑤自分の命を守り抜くための知識や態度が、子どもの身につくよう、KYT（危険予測トレーニング）を活用した安全教育や防災教育を展開する。

(6) LD等支援の必要な子どもの教育の重点

- ①個別の指導計画・個の課題に応じた指導計画を作成し、適切な支援による教育を推進する。
- ②LD等支援の必要な子どもの課題を教職員が共通理解し、適切な支援により一人一人の学力向上を図る。